

でも、どこかにつれて行かれても、がにおのように、帰^{かえ}ってきたなかまもいる。がにおは、

「せまくてながれのない川^{かわ}で、水^{みず}がにごっていて、くさくて、たまらなかつたよ。」と、言^いっていた。とても、すみたくない川^{かわ}なんだと思^{おも}う。

あつ、今^{いま}、人間^{にんげん}の子^こども^の声^{こゑ}がした！

足音^{あしおと}が近^{ちか}づいてくる。早^{はや}くいなくなってくれ。

ガバツ！

あつ、石^{いし}が：見^みつかってしまった！こうなったら、

じまんのおよぎで、にげきるしかない！

ハア、ハア、この人間^{にんげん}、しつこいぞ！だめだ。

にげきれない…

「やったあ、ザリガニをつかまえたよ！」

「人間^{にんげん}の子^こども^もさん。

おねがいだ！」



「ザリガニのきもち」

ぼくは、ニホンザリガニのざりた。ぼくは、およぐのがとくいで、にげるのはじしんがある。

何人かのなかまと、山おくの、この川でくらししている。ここは、水がとってもきれいだ。それに、こわいアメリカザリガニがない。ぼくらにとっては、ここは、さいこうの川だ。ぼくは、この川が、大すきだ。ずっと、ここにいたい。

けれども、さいきん、こまったことがあるんだ。人間の子どもが、ぼくらをつかまえようとするんだ。

大きな目でのぞかれたり、きゆうに石をめぐられたり…

およぎがとくいなぼくは、今のところだいじょうぶだけれど、何人かのなかまが、つかまり、どこかにつれて行かれた。